

8. 逆性埋伏前歯の処置について

○首藤 博子、真鍋 明子、木山 恭一

(きやま矯正歯科クリニック)

逆性に埋伏している上顎前歯に対しては、主に、次のような点を考慮しながら、その処置を決定することが多い。

1. 歯冠の完成度、屈曲状態

歯冠は上方を向いていても、歯根は通常通りに形成され、結果として、歯は、歯頸頭から屈曲していることが多い。この屈曲が著しい場合、歯冠を正常位置まで牽引してきても、歯根が唇側歯槽骨から露出してくる。

また、歯根の形成が著しく劣っている場合は、牽引後、安定した植立状態が得られない場合もある。

2. 上顎歯列のディスクレパンシーの程度

上顎歯列に、抜歯を必要とする程度のディスクレパンシーがある場合、正常な形態でない埋伏前歯を抜去して、ディスクレパンシーを改善することも考えられる。

今回は、本クリニックにて処置を行った、逆性埋伏前歯の数例について報告する。